

## 岳ノ山～大鳥屋山山行報告

【山行日】2022年 3月 12日(土) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 7:00

【費 用】マイカー3台 : 600円

【メンバー】CL:鈴木、SL:大西、  
青柳、安西、飯口、植竹、大塚、嶋田、島田、関、  
廣瀬、福島、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P7:00=市営 P7:45/8:00～  
滝見の松 8:30/8:40～岳ノ山 9:50/10:00～大鳥屋  
山 11:15/11:25～市営 P12:10/12:20=仙波そば  
高齢者センター12:50/13:30=道の駅「たぬま」  
13:55/14:15=岩舟支所 P14:35



岳ノ山&大鳥屋山に登りたいとのリクエストがあり、下山後の仙波蕎麦と併せて計画した。岩舟支所を7時に出発し道の駅「どまんなかたぬま」でトイレを済ませ、旧葛生町から秋山川を北上



し五丈の滝入口を左折し市営駐車場に着く。準備を整え、ストレッチを行なったら出発する。駐車場から林道に出て右に進み、直ぐに分岐があるが直進して五丈の滝へ向かう。林道を進むと終点の広場に出て、ここに五丈の滝の案内板があり、ここから本格的な山道に入る。スギの植林帯の道を登って行き、沢を大きく回り込むように進むと五丈の滝観瀑台の標識があるが、滝は水が流れ落ちて無いのでそのまま進む。200mほど進むと滝見の松に出るが、

松は枯れてしまっていて滝も見えない。休憩を取って衣服調整し、水分を補給して出発する。ここから前沢本流に沿って登って行くが、倒木がひどくアスレチック状態で進むのが困難である。倒木を乗り越えたり倒木の下をくぐったりを繰り返し、いくつかの踏み跡でどこが登山道か分からない。先頭のSLはギブアップで、我輩が先頭でルートファインディングをしながら登って行く。しばらく倒木との格闘が続き、沢の二俣に出て右股に進むと倒木は無くなるが急登が始まる。岩がゴロゴロしている沢を登って行き、炭焼き窯跡を過ぎた平坦地で休憩しキーウィフルーツや菓子を食べてエネルギーを補給する。ここから上はスギ林の中をジグザグと登って行き、本日のコースで一番きつい急登である。途中立ち休みを取りながら登り切り、頂上から東に延びる主稜線に出て小休止する。





ここから主稜線を山頂に向かって登り、石祠と石仏が置かれた岳ノ山山頂に着く。展望はあまり得られないが、樹間から雪化粧した男体山を見ることが出来る。デコポンや菓子をいただき、疲れた



足を休めたら大鳥屋山へ向かう。大鳥屋山へは南に延びる尾根を下り、急な岩場をロープを頼りに下って行く。人数が多いので時間が掛かり、パーティーの列も長く伸びて後が見えなくなる。アップダウンを繰り返しながら下り切り、登り返したピークが624mピークである。ここから200mほど下ると大鳥屋山への標識があり、左の尾根に向かう。ここを見落としてしまうと、反対方向へ下ってしまうので注意が必要な個所だ。岳ノ山山頂で会った若い男女に教えてあげたが、間違っ

て直進したようである。ヒノキの植林帯の中を進み、鞍部で下山に進む道を左に分け急坂を登って行く。しばらく急登が続き傾斜が緩くなると北西側の展望が開け、岳ノ山とその奥に日光連山が望める。やがて広い山頂の一端に出て、平坦な山頂部を進むと山ノ神の石祠や御嶽大神の立派な石碑が現れる。山頂はその先の静寂な中にたたずみ、一等三角点と山頂標識が無ければ、気づかずに通り過ぎてしまいそうである。山頂標識の前で記念写真を撮り、休憩してデコポンやどら焼きをいただく。



疲れた体を休めたら下山開始し、鞍部の分岐まで戻って右に踏み跡を辿って下って行く。スギやヒノキの植林帯をトラバース気味に下り、2度ほど沢を巻くように下って行く。小尾根を右に巻くように下ると林道に出て、左に沢沿いの林道を下ると往路の分岐に合流し駐車場に着く。靴を履き替えたら車に乗り、昼食を食べる仙波そば高齢者センターへ向かう。高齢者センターに着くと客が少なく、全員が直ぐに食券を買い席に着くことが出来た。皆さんが美味しいと出来立ての蕎麦と揚げたての天ぷらを食べ



べ、大満足で高齢者センターを後にする。

途中、道の駅「どまんなかたぬま」に寄り、お買い物して岩舟支所に帰着した。